

# 四国デイスカバリ

～横のつながりを大切に。産業用はかりで地域社会貢献を～



※写真は鎌田社長と、鎌長製衡株式会社の所有する日本最大級のマスコンパレータ―（大型分銅検査器）です。

今回お邪魔したのは、高松市牟礼町にある鎌長製衡株式会社です。鎌長製衡は約140年の歴史を持つ日本を代表する産業用はかりのメーカーです。長年、香川県の地場産業である「はかり」の製造に携わり、地域と共に歩んできました。また、高度経済成長期には業界に先んじて環境・リサイクル機器の開発・製造にも取り組み、国内はもとより世界各国へ製品を納入しています。

今回は同社の代表取締役社長を務める傍ら、来年1月には香川県から初の日本青年会議所新会頭に就任する鎌田長明さんにお話を伺いました！

## 企業・団体情報

名称 鎌長製衡株式会社  
所在地 香川県高松市牟礼町牟礼 2246 番地  
創業 1880年（明治13年）  
設立 1947年（昭和22年）  
代表者 鎌田長明  
従業員 172名  
資本金 8,000万円  
HP <http://www.kamacho.co.jp/>

## ●老舗企業として大切にされてきたことは？

当社は1880年に高松市で創業し、私で創業家は6代目になります。「鎌長のはかりだから信用できる」というお客様との信頼関係を最も大切にしてきました。

はかりメーカーというのは、ある意味「銀行」と同じです。銀行がお金を数え間違えると社会は混乱します。同様に「はかり」が物を正確に計量できない時にも社会は混乱するでしょう。取引の信頼を支え、社会の秩序を守るごまかしの効かない仕事です。

当社は顧客の声や時代のニーズに応えながら「量る」ことを追求してきました。長年積み重ねてきた信頼をもとに、安全・安心で持続可能な社会づくりを目指してまいります。人手不足に対応した産業用はかりやリサイクルプラント（廃棄物の有効活用施設）はその一例です。

## ●地方創生についてお聞かせください。

地元雇用・人材育成に取り組んでいます。全国5ヶ所に支店がありますが、社員の約8～9割を香川県で採用しています。また、若者が活躍しやすい職場づくりに取り組んでおり、若手社員にはある程度の仕事と責任を持たせ、失敗を恐れず自ら考えて仕事をしてもらうようにしています。

若い世代には様々なことにチャレンジしてほしいですね。日本はインフラもセーフティーネットも整備されていて、チャレンジしやすい環境にあると思います。

地方都市では経済活動だけではなく、魅力ある文化や社会があるところに人が集まってくると思います。地方で雇用機会を創出し、人材を育て、魅力のある文化や社会の根付いた地域をつくることが大切ではないでしょうか。



インタビューは終始和やかな雰囲気で行われました。



●御社で取り組まれている、女性が働きやすい職場づくりについてお聞かせください。

ただ「当たり前のことを当たり前のように」やっているだけです。例えば女性社員について言えば、当社には70代までの幅広い年齢層の社員が約30名在籍しています。女性社員が産前・産後休暇や育児休業を取りやすいように、社内環境を整備しているところです。

人数の割合となると、全体の約10～15%といったところでしょうか。当社は歴史が長くクラシック、かつモノづくりという理系の分野に当たる企業なので、正直なところ、女性の応募者はあまり多くはいらっしゃらないという状況ではあります。しかしながら、当社の女性社員は、各々専門の分野でその役割を果たしてくれています。

●御社の「これから」を教えてください。

やはりこれからも「信用」「信頼」を大切にしていきたいですね。かつ質の高さを売りにしたブランド力を維持し、さらには社会の役に立つ製品を作ることによって環境や地域社会に貢献していきたいと考えています。これは環境や地域のためというのも勿論ですが、お客様や協力して下さる企業様等との横のつながりを大切にしてきた当社が生き残るためにも必要なことだと思っています。

社会貢献の一つとして、当社は毎年、地元香川出身のアーティストによるコンサートを主催しています。4回目となる今年は、栗林公園の秋のライトアップとコラボします。東日本大震災のチャリティーがきっかけで始めたことですが、この取組みが少しでも地域の活性化や地元出身アーティストの人材育成に繋がればと思っています。

●最後に何かぜひ一言お願いします。

まず環境は揃っているのですから、若者にちゃんとチャレンジをしてもらいたいですね。彼らがいつもやっていることだけやれば良いと思ってしまうと、今後世界で日本は生き残っていけません。

そして日本全体ということで考えれば、出生率も心配ですね。地方と東京を比較すると、地方は出生率が高く、東京は低い。かつ、地方で生まれ育った女性は進学や就職等を機に上京すると戻って来ないといえます。そのような状況では日本の出生率は低くなっていくばかりです。この悪循環を止めるべく、女性や若者を地方に留めるにはどうすべきか、今こそ考え、取り組んでいく必要があるのではないかと思います。



主力製品のひとつ「トラックスケール」【写真提供：鎌長製衡】  
取引の安全安心にトラックスケールでの計量は欠かせない。

<取材後記>

○ 老舗企業でありながら常に新たな技術開発に挑戦し、次のニーズを探っている社長の経営姿勢には非常に感銘を受けました。鎌長のような次の時代をリードしていく企業が地元にあることを知り、誇らしい気持ちです。私たちも挑戦する気持ちを忘れず、横のつながりを大切に、地方創生に向けた取組みをしていきます！（局 会計課 亀山快司）

○ 東京出身ということもあって、恐縮ながら鎌長がはかりの会社であり、かつ高松の地場産業であるということは存じ上げませんでした。ですがお話を伺う中で、鎌長がいかに地域に貢献してきたかということを知りました。このように地方の抱える問題解決に積極的に取り組む企業が増えれば日本は変わるのではないかと、そのような企業にぜひ増えてほしいと切に願います！（局 金融証券検査官 井島加南子）

掲載している情報は、平成30年11月時点のものです。